

## 第 10 期英語論文海外学会報告

第 10 期 小笠原 裕公

そもそも、我がインゼミチームは、英語論文に挑戦するつもりはなかった。なぜならば、代表である私、小笠原が、大の英語嫌いで、とにかく英論化に反対していたからである。しかし、小野先生からのご提案や、笹本の「トルコでケバブが食べたい」発言に同調したメンバーたちが勝手に英論化を始め、1人取り残された私は、しぶしぶ英論プロジェクトに参加することにしたのであった。そんなダメな代表とインゼミチームとの英論化の軌跡を振り返ってみたいと思う。

### ◆四分野インゼミ報告会（2012年12月）

世間は、就職活動解禁日で賑わう12月1日。我らインゼミチームは、そんなことにはおかないで四分野インゼミ報告会での発表に控えていた。この半年間、この日のために論文を執筆し、パワーポイントで資料を作成し、発表練習に打ち込んできたのである。発表そのものは無事に終わったものの、インゼミチームに安堵の息を漏らしている暇はなかった。2013年度のEMAC（European Marketing Academy：欧州マーケティングアカデミー）はトルコで開かれること



発表が終わり安堵するインゼミメンバーと小野晃典先生  
（著者は後列右から2番目）

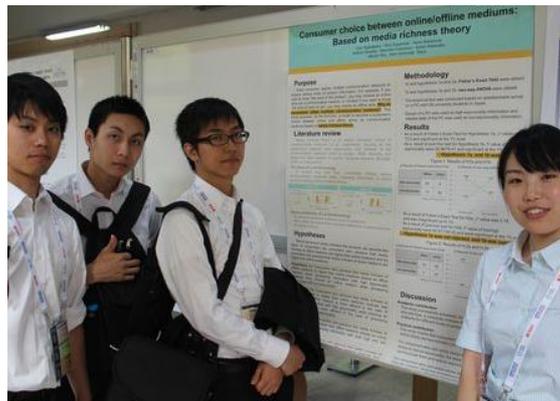
とになっており、参加が認められれば6月にトルコに向かう予定であった。そのEMACの参加締切が12月5日に迫っていたからである。とにかく急いで三田祭論文を英語化する作業をせねばならない。そのためにメンバー総動員で英語化し（代表はお荷物であった）、小野先生にも徹夜で作業にお付き合いしていただいた結果、なんとか締め切りまでに英論化が間に合ったのであった。この短時間の作業で英論化が間に合ったのも、ひとえに小野先生のご協力の賜物としか言いようがない。この場を借りて再度お礼申し上げたい。本当にありがとうございました。そんなわけで、submitのボタンを押すという重労働を済ませた私は、ひとまず落ち着くことができ、就活なんて忘れて遊び呆けていたのであった。

### ◆トルコでの学会発表（2013年6月）

2013年3月。就職活動の真っ最中にEMACからのメールが届いた。内容は、「学会発表はできないけれ

ども、ポスターセッションには参加してもいいよ」というものであった。学会発表ができないことに肩を落としたものの、ポスターセッションという形でも参加が認められたことに素直に喜び、参加を決意したのであった。

かくして、2013年6月、大学院修士1年生である竹内さんと共に、トルコはイスタンブールの大地に降り立った。丁度その時期は、トルコはデモの真っ最中であり、EMACの開催も危ぶまれたも



ポスターとインゼミメンバー（著者は右から2番目）

の、なんとか開催され、私たちもポスターセッションに参加できたのであった。ポスターセッション中は、様々な来客の質問に対して答えたり、他のポスターセッション参加者の所へ質問しに行ったりと活発に交流を重ね、世界中の様々な研究者の視点や考え方を学ぶことができた。慣れない外国の地で、日本語でも難しい研究内容を英語で伝えるという作業に心折れそうになるものの、とても勉強になり、なによりも世界の広さを知ったことで視野が広がったように思える。英語嫌いで英論化に反対していた自分が嘘のように外国の学会を楽しむことができ、英論化に踏み切ったメンバーと提案してくださった小野先生には感謝してもしきれないほどの貴重な体験をすることができた。

ポスターセッション終了後も、EMACが用意した船に乗ってクルーズを楽しんだり、ディナーに参加しておいしいものを食べたりと、イスタンブールを満喫することができた。自分自身の限界を超えて、国際学会という舞台に立てたことは本当に良い思い出になり、このゼミに入って本当によかったと思った。関わった全ての方に感謝してもしきれない恩を感じています。本当にありがとうございました。



英論メンバー、大学院生の竹内さん、小野先生と共に（著者は右端）